

## 安全データシート

改訂日：2022年9月9日

1. 化学品及び会社情報	
化学品の名称(製品名)	ワセリン,白色／黄色
推奨用途	試験研究用
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	FA0014
2. 危険有害性の要約	
GHS分類	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分2B
健康に対する有害性	
GHSラベル要素	—
絵表示又はシンボル	警告
注意喚起語	眼刺激
危険有害性情報	【安全対策】 取扱い後は手などをよく洗うこと。
注意書き	【応急措置】 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当を受けること。
	【保管】 容器を密閉し、涼しく換気の良いところで保管すること。
	【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
3. 組成、成分情報	
化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	ワセリン
別名	ペテロラタム
化学式	C <sub>x</sub> H <sub>y</sub> (主にC=15~20のもの)
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN：8009-03-8
濃度又は濃度範囲(含有率)	石油系炭化水素100%
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(9)-1693
その他	HSコード：2712.10
4. 応急措置	
吸入した場合	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合には、医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口の中を洗浄後、多量の水を飲ませて吐かせ、直ちに医師の手当を受けること。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。
特有の消火方法	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	消火活動は風上から行き、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項	作業の際には適切な保護具を必ず着用し風上から作業する。
緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化方法・機材	漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	

取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 眼に入れないこと 酸化剤との接触を避ける。
接触回避	
保管	
適切な保管条件	換気の良い涼しい場所に直射日光を避けて保管する。密封保管。湿度、有機ガスとの接触を避ける。 換気の良い冷所に直射日光を避けて保管する。 ガラス
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	3mmg/m <sup>3</sup> (鉱油ミストとして発がん物質)(日本産業衛生学会)
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定(ACGIH)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	軟膏様物質
色	白色～黄色
臭い	該当情報なし。
融点・凝固点	38～60℃(規格値)
沸点又は初留点及び沸騰範囲	302℃(文献値)
燃焼性(固体、気体)	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	0.9～7vol%(空气中)(推定値)
引火点	182～221℃以上(文献値)
自然発火温度	290℃以上(文献値)
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
粘度(粘性率)	該当情報なし。
溶解度	水、グリセロール、アルコールに不溶
n-オクタノール/水分係数	log P > 6(文献値)
蒸気圧	1.3pa未満(文献値)
密度及び/又は相対密度	0.953～0.965(15/4℃)(文献値)
相対ガス密度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	通常取り扱いに於て安定。
危険有害反応可能性	該当情報なし。
避けるべき条件	直射日光、高温、多湿
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	該当情報なし。
11. 有害性情報	
急性毒性	経皮: データがなく分類できない。なお、パラフィンワックス(CAS No. 8002-74-2)との混合物(50/50)では、ウサギのLD50値3600mg/kg bw(IUCLID(2000))、である。 吸入:(粉塵) 半固体(semi solid(Merck(14th, 2006)))であり、常温で液体と思われる。 データなし。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	PATY(5th, 2001)で刺激性はなく皮膚試験のvehicleとして使用されるとの記載があることから区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギにおいて、評価結果「slightly irritating」である(IUCLID,(2000))より区分2Bとした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器: データなし。 皮膚: ヒトにて、評価結果「not sensitizing」(IUCLID(2000))、反復暴露により皮膚炎(dermatitis)はみられたが感受性ではない(IUCLID(2000))、およびアレルギー性はなく、皮膚試験のvehicleとして使用される(PATY(5th, 2001))の記載がある。以上の結果から区分外とした。 データなし。
生殖細胞変異原性	

発がん性			ラットの混餌試験(FDRL, about 3000mg/kg/day)において、白色物質2例および黄色物質1例(精製度の違い)にて発がん性は認められない(EHC20(1982))。マウスの経皮投与試験(80週間, 25 and 50mg)にて、発がん性は認められなかった(IUCLID(2000))。PATTYでは、精製度の高い物質の発がん性は殆どまたは認められないの記載がある(PATTY(5th, 2001))。EU分類においては、「精製度の低いもの(黄色、琥珀色、茶色ワセリン)は、工業用として使われ、発がん性の多環式芳香族を含むことがある。」に基づき、Cat.2(区分1B相当)である(EU-Annex I (access on 9. 2008))。以上の結果、精製度の低い黄色物質に関する情報が十分に得られないことから分類できないとした。
生殖毒性			データなし。
特定標的臓器毒性(単回暴露)			ウサギの皮膚試験(24時間暴露, 4ml/kg)において毒性症状(剖検における異常または全身への作用(systemic effects))は認められないが、試験物質がparaffin wax(CAS No.8002-74-2)との混合物(50/50)である(IUCLID(2000))。得られた情報はこの1試験およびマウスの皮下投与試験(IUCLID(2000))のみであり、データ不足で分類できないとした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)			ラットの混餌試験(FDRL, 2年間, about 3000mg/kg/day(90日補正24000mg/kg/day))において、白色物質2例および黄色物質1例(精製度の違い)にて、毒性症状(行動、死亡率、血液項目、尿および臓器組織)に異常は認められない(IUCLID(2000))との記載より経口経路では区分外相当であるが、他経路の情報がなく分類できないとした。
誤えん有害性			データなし。
12. 環境影響情報			
生態毒性	短期: (急性)		データなし。
	長期: (慢性)		データなし。
残留性・分解性			該当情報なし。
生体蓄積性			該当情報なし。
土壤中の移動性			該当情報なし。
オゾン層への有害性			当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意			
残余廃棄物			産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意			
国連番号			—
品名(国連輸送名)			—
国連分類			—
容器等級			—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策			食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報			
陸上輸送			消防法の規定に従う。
海上輸送			船舶安全法の規定に従う。
航空輸送			航空法の規定に従う。
応急措置指針番号			—
15. 適用法令			
化学物質管理促進法(PRTR法)			指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法			毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法			名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔ペテロラタム〕〔施行令別表9〕(2026年(令和8年4月1日)以降)危険性又は有害性を調査すべき物〔ペテロラタム〕(2026年(令和8年4月1日)以降)
消防法			危険物に該当しない。
16. その他の情報			
引用文献			NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 職場の安全サイト(厚労省HP) GHSの挑戦(化学工業日報社)
その他			記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。